実業の拡大における先端産業という挑戦

令和６年２月１４日
黒田インターナショナルコンサルティング
黒田　毅

事業において、虚業と実業が存在する。実業の拡大は、先端産業における新しい企業の可能性を実現できるものである。

これら先端性はソフト資産における、新規市場への参加と事業構築を可能とするものである。

ステーブジョブスやイーロンマスクは、自らの理想において現実を与えたのである。それらはソフト資産の深耕が可能であるならば、後発における市場参入を行っても対応な事業構築が可能であると考えるべきである。

これらは独自視点や理解が、可能性を提案できることを意味し、大学関係者の参加などにおける協力は、これら事業構築が可能性とともに実現できることを意味する。

これらは独自ビジョンや理解という学術深耕とともに、全ての現実に対して対等な自己を要求することは必ずできるのである。

隷属すれば決してそれらに優れることはでいない。しかし独立性を持って、それらを行えば、それに優れることはできるのである。

これらがソフト資産という基盤の有する可能性なのである。

これらは人材が未来を有することを意味する。そのためグローバル基準における給与体系は真実としてその必要性において存在するのである。

これらは、既存現実の崩壊が存在し、泥舟において未来を失うことに対する正しい企業の選択なのである。

これらは、可能性という未来への挑戦であり、決意と実高における未来の創造なのである。

国家の安全保障において、これら産業の構築は絶帝会な必要性なのである。